

平成18年度 病害虫発生予察情報

発生予報第4号(7月)

平成18年7月3日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	少ない		
		ヒメトビウンカ	やや少ない		
		ニカメイチュウ	少ない		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		果樹	ナシ	斑点米カメムシ類	平年並
				黒斑病	平年並～やや多い
黒星病	多い				
シンクイムシ類	やや多い				
ハダニ類	少ない				
アブラムシ類	やや少ない				
うどんこ病	少ない				
カキ	うどんこ病	少ない			
	チャノミ	やや少ない			
野菜	果樹全般	カメムシ類	やや多い		
	イチゴ	うどんこ病	平年並		

中国地方1か月予報(7月1日～7月30日・広島地方気象台6月30日発表)

向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みの見込みです。期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

防除所ではいもち病、ウンカ類、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。アクセスはこちら <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>

A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

初発生は6月19日と平年に比べて遅い(平年6月8日)。

6月27日現在、巡回調査地点において発生は認められていない(平年発生圃場率12.2%)。

感染好適日は6月23日以降、のべ23地点と高頻度に出現している。

7月の気象は、気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生にはやや助長的である。

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方

県下全域

- 発生量 平年並
- 予報の根拠
伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。
7月後半の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
- (3) 紋枯病
- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並
- 予報の根拠
初発生は平年並みの6月16日に認められた。
6月末現在の発生量は平年に比べてやや少ない。
7月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (4) 白葉枯病
- 予報内容
発生地方 県下常習発生地帯
発生量 平年並
- 予報の根拠
6月末現在発生を認めていない。
5月以降の積算降水量はほぼ平年並みである。
7月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (5) 縞葉枯病
- 予報内容
発生地方 県下常習発生地帯
発生量(後期感染量) 少ない
- 予報の根拠
6月末現在発生を認めていない。
媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年に比べてやや少ないと予想される。
- (6) ヒメトビウンカ
- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない
- 予報の根拠
6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.1頭(平年0.3頭/50株)、発生圃場率は6.9%(平年17.8%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ(第1世代)
- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 少ない
- 予報の根拠
予察灯、フェロモントラップにおける越冬世代成虫の誘殺数は平年に比べて少ない。
6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は0%(平年6.1%)、被害株率は0%(平年0.4%)で発生量は平年に比べて少ない。
7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ
- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない
- 予報の根拠
6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.3頭(平年3.6頭/50株)、発生圃場率は24.1%(平年46.7%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (9) セジロウンカ
- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並
- 予報の根拠
予察灯への初飛来は、浜田市で6月16日に観察された。それ以降まとまった飛

来は25～27日に認められた。現在までの誘殺数はほぼ平年並みである。

6月下旬の巡回調査では、成虫が5.2頭（平年6.6頭/50株）、圃場率は72%（平年62%）で平年並みである。

7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならないが、梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、6月末までに認められない。

6月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯への初飛来は、6月末までに認められない。

6月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

6月下旬の病害虫防除員による圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で1.7頭/10回振り、調査地点の46%（去年同期：0.4頭/10回振り・20%）で発生量は平年並みである。主要種はホソハリカメムシである。

7月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

現在、発病葉率は7.3%で、発生量は平年並みである（平年10.6%）。

7月の気象は、気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生にはやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

現在、発病葉率は1.7%で、発生量は平年に比べて多い（平年0.2%）。

7月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

ナシヒメシンクイ第1世代雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや早く、総誘殺数はやや多い。

7月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

6月巡回調査では寄生葉率3.4%（平成12.4%）で少ない。
7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

6月巡回調査では寄生梢率11.1%（平成25.9%）でやや少ない。
7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯
発生量 少ない

予報の根拠

6月の巡回調査では発生は認められなかった（平成0.64%）。
7月の気象は、気温は平成並みが高く、降水量は平成並みが多いと予想されており、本病の発生本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平成に比べてやや少ない。
7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

4) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下果樹栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

露地圃場に設置したトラップでの誘殺数は平成に比べてやや多い。
7月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) イチゴ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下全域（苗）
発生量 平成並

予報の根拠

6月下旬の調査では、発生量は平成並みである。
7月の気象は、気温は平成並みが高く、降水量は平成並みが多いと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853 - 22 - 6772

FAX 0853 - 24 - 3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>